

NO BOOK NO LIFE

2025.1.24 高崎高等学校図書館

延滞している本がある人は早めに返却を！

3学期は一年のまとめの大切な学期ですね。共テを終えた3年生は、二次試験に向けてラストスパート。図書館では小論文関連コーナーもありますので、ぜひ活用してください。分野ごとに本が並べてあります。テーマに沿った本を探す場合など気軽に質問してください！ 進路決定した人は、今が読書のチャンス。この機会にさまざまなジャンルの本を読みましょう。



入試によく出る著者

- ・ 鷲田清一 → 「待つということ」(角川選書) など
- ・ 内田樹 → 「コモンの再生」(文藝春秋) など
- ・ 大澤真幸 → 「自由という牢獄」(新潮社) など
- ・ 森田真生 → 「数学する身体」(新潮社) など
- ・ 河本英夫 → 「哲学の練習問題」(講談社学術文庫)
- ・ 村上陽一郎 → 「人間にとって科学とは何か」(新潮選書) など
- ・ 池内了 → 「なぜ科学を学ぶのか」(ちくまプリマー新書) など



昨年度東大・京大入試に出た本

昨年度東大入試第一問(文理共通現代文)は小川さやか著「時間を与えあう」(2023年)でした。東大現代文は、第一問が評論文で、第四問はエッセイが出るという通説とは違うエッセイ調の文章です。また、第一問の出典の著者は、共通一次が始まった79年以降ずっと男性だったようですが、やっと女性の著者になったとか。本校でも小川さんの著書を一冊受け入れています。



「その日暮らし」の人類学
小川さやか著(光文社新書)

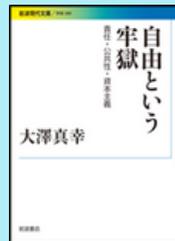


夕暮れに夜明けの歌を
(イーストプレス) 奈倉百合著

昨年度、京大入試の現代文では、奈倉有里著『夕暮れに夜明けの歌を——文学を探しにロシアに行く』が出題されました。こちらは本校図書館にあります。

近年の大学入試で出題された本

※紹介した本は本校図書館にあります

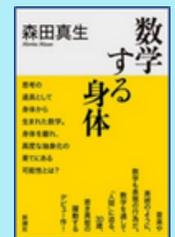


自由という牢獄
大澤真幸著(岩波書店)

自由という牢獄 著者：大澤真幸

東北大

リベラルな社会においても、さまざまな意味で「自由」が空虚なものとなっている。そんな「自由という名の牢獄」から、どうやって抜け出すことができるのか？大澤真幸さんの本は、大学に入学する前に、一冊は読んでおいてほしいと思います。



数学する身体
森田真生著(新潮社)

数学する身体 著者：森田真生

京大

思考の道具として身体から生まれた数学。だが、最先端の数学に、身体の居場所はあるのか。数学の歴史を清新な目で見直す著者は、チューリング、岡潔という二人の巨人へ辿り着く。



増えるものたちの進化生物学
市橋伯一著(ちくまプリマー新書)

増えるものたちの進化生物学

名古屋大

著者：市橋伯一

生命と非生命をわけるもの、それは「増える」ことである。増える能力は生命を悩める存在へと変えてしまった。例えば「自分はなんのために生きているのか？」と誰もが一度は考えたことがあるだろう…。昨年度、中学入試でも多くの学校で出題されています。



「友だち」から自由になる
石田光規著(光文社新書)

「友だち」から自由になる 著者：石田光規

新潟大

現代社会を生きる私たちの友人関係は、あらかじめ「友だち」という枠を当てはめ、関係の中身を調整することで成り立っていると著者は言います。友人関係というのは時間とともに変化していくもろい者なのだと思います。まず誰かと一緒にいてみることから何かが始まるかもしれません。

思考の整理学 新版
著者：外山滋比古

本書は東大・京大生で一番読まれた本！としても有名です。社会に出てからも役立つ「思考」のヒントを与えてくれる本。

入試の定番